

心臓血管疾患集中治療部 (CCU)

Cardiovascular Care Unit

心臓血管疾患集中治療部長

木村 剛



すべての患者さんに 思いやりのある最良の医療を

南病棟の1階に開設された心臓血管疾患集中治療部 (CCU) は、救急外来、心臓カテーテル室との動線がよく、機能的に設計されている。6床すべてにバイタルサインのモニターが完備され、さらにPCPS、IABPといった補助循環装置の設置により、重症患者への対応や透析・CHDF (持続的ろ過透析装置) などの血液浄化への対応が可能になった。1床あたりの面積も広く、重症心疾患患者へも十分に対応できる。

2006年度に開設されてから8年が経過したが、救急患者数は年々増加傾向にあり、施設としてより充実しつつある。今後ますます紹介医や救急隊からの要請により速やかに対応し、患者さんに対して最良の高度医療を提供できるよう努力していきたい。

代表的診療対象疾患

急性心筋梗塞、不安定狭心症、急性大動脈解離、急性心不全、慢性心不全急性増悪、肺塞栓、重症不整脈、心肺停止、急性心筋炎、心臓血管外科手術後など

業務内容の特徴と実績

重症の心臓血管疾患に高度に対応

重症の心臓血管疾患に対応するため、CCU (6床) が2006年6月1日に開設された。このCCUは、循環器内科で診療にあたる医師一同が以前から設置を希望していた施設である。循環器疾患に対して高度専門医療を行うのに相応しい施設で、一層の治療成績の向上をめざしている。これにより急性心筋梗塞、急性心不全、重症不整脈、急性大動脈解離など救急処置を要する循環器疾患にも迅速に対応することが可能となった。地域の病診連携・病病連携においても、京大病院の役割を一層果たすことが可能である。

なお、CCUとは従来Coronary Care Unit、すなわち急性心筋梗塞などの冠動脈疾患患者に対して集中治療を行う部門であるが、近年冠動脈疾患に限らず重症心不全、急性大動脈解離などの血管疾患、重症不整脈、心臓血管外科での手術後の患者などさまざまな心臓血管疾患患者を治療する施設へと変化している。よって京都大学医学部附属病院の

本施設では、略語としては同じCCUであるが、心臓血管疾患集中治療を意味するCardiovascular Care Unitの頭文字を意図している。



高度先進医療の取り組み

患者さんにやさしい血管内治療を推進

近年、心臓の構造的疾患を対象としたStructural Heart Disease (SHD) に対する血管内治療に注目が集まっており、当科においても心房中隔欠損症 (ASD) (図1) に対する経皮的心房中隔欠損症閉鎖術を2012年より施行している。また2013年度からは重症の大動脈弁狭窄症に呈する経皮的動脈弁留置術 (TAVI) (図2) を施行している。いずれも低侵襲という特性から、より患者さんにやさしい治療となっている。今後も新しい血管内治療に積極的に取り組み、患者さん

のために貢献できるように日々努力を重ねていきたいと思っている。



図1



図2